

令和 5 年 6 月 21 日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究(A)（一般）

研究期間：2018～2021

課題番号：18H03619

研究課題名（和文）権威主義とポピュリズムの台頭に関する比較研究

研究課題名（英文）Comparative Study of the Rise of Authoritarianism and Populism

研究代表者

宇山 智彦（Uyama, Tomohiko）

北海道大学・スラブ・ユーラシア研究センター・教授

研究者番号：40281852

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 30,330,000円

研究成果の概要（和文）：世界的な民主主義の危機の2つの側面である、権威主義とポピュリズムの台頭について、世界秩序の変化や社会変動から受けている影響、価値観や制度（特に代表制の危機や政党制の変化）との関係、国際的な伝播・相互作用などの多様な視点から比較分析した。また、権威主義とポピュリズムの相互関係や統治能力の問題について研究した。そこから、権威主義体制の強さ・弱さと進化・粗暴化や、ポピュリズムの台頭によって民主主義のどの側面が毀損されるのか（水平的アカウンタビリティの問題など）、また各国の所与の政治的・社会的・経済的条件と権威主義的・ポピュリズム的体制の性質や統治能力との関係について、多面的な知見が得られた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、別個に行われることが多い権威主義とポピュリズムの研究を結びつけ、両者の共通性と違い、相互関係を解明した。また、権威主義とポピュリズムの統治能力（特に社会のニーズや危機への対応）という問題は従来ほとんど注目されてこなかったものであり、特に権威主義的なガバナンスとアカウンタビリティの可能性と限界を明らかにしたのは独自の成果である。本研究は、世界各国のコロナ禍への対応やロシアのウクライナ侵略戦争によって改めて注目された権威主義とポピュリズムの問題性を学問的に分析し、それらの問題への実践的な対応を考えるための材料を提供している。

研究成果の概要（英文）：We studied the rise of authoritarianism and populism, two aspects of the global crisis of democracy, from diverse perspectives, such as the impact of changes in the world order and social changes; their relationship to values and institutions that are experiencing, among others, a crisis of representative politics and changes in the party system; and their international transmission and interaction. We also focused on the interrelationships between authoritarianism and populism and their ability to govern. From these studies, we obtained multifaceted insights into the strength, weakness, evolution, and brutalization of authoritarian regimes; horizontal accountability and other aspects of democracy that are damaged by populism; and the relationship between the given political, social, and economic conditions in each country and the characteristics and governing ability of authoritarian and populist regimes.

研究分野：政治学・地域研究

キーワード：比較政治 権威主義 ポピュリズム 民主主義の危機 世界秩序の変動

1. 研究開始当初の背景

研究開始当時は、2000年代半ばから徐々に進行していた世界的な民主主義の危機が、2016年アメリカ大統領選挙でのトランプの当選によって誰の目にも明らかになった時期だった。ポピュリズムと権威主義の研究が一気に盛んになったが、比較政治学は自由民主主義を基準として発展してきたため、既存の権威主義体制研究は民主主義から逸脱した体制がどの程度持続したのち崩壊するかという視点のものが多かった。また一時流行した「競争的権威主義」論などの影響で民主主義と権威主義の中間的な体制が注目される傾向が強くなり、すでに長く継続している非競争的な権威主義体制が少なくないという現実と合っていなかった。ポピュリズムについても、民主主義の枠内の現象であるという面が実態以上に強調される傾向があったほか、概念の定義を共有していないことによる議論の混乱が見られた。また、ポピュリズムと権威主義の関係についての見方も定まっていなかった。

本研究代表者は、1995年から中央アジア諸国の権威主義体制の研究を始め、権威主義体制研究全般の重要性も早くから訴えてきた立場から、民主主義の危機や権威主義の進化が見られる主な国々・地域を専門とし、なおかつ世界的・歴史的視野を持つ研究者たちを結集して、権威主義とポピュリズムの台頭に関する比較研究を構想した。なお、ポピュリズムという言葉が指す範囲にはかなりの揺れがあるが、本研究ではこの言葉の定義の多様性を視野に入れつつも、民主主義の危機という観点から最も重要な、反多元主義と反リベラリズムを特徴とする右派ポピュリズムを主に扱う。

2. 研究の目的

研究開始時に掲げた目的は以下の通りである。

- (1) 権威主義とポピュリズムの関係の検証
 - (2) 世界秩序の変化と、権威主義やポピュリズムの台頭との関係の考察
 - (3) 社会変動と、権威主義的・ポピュリズム的価値観の関係の考察
 - (4) 議会・政党・選挙・国民投票や行政・司法などの制度が、権威主義とポピュリズムの台頭において持つ意義の分析
 - (5) 権威主義的・ポピュリズム的政治手法に関する、諸国間の模倣・学習・宣伝の分析
- また、研究を進める中で、権威主義的・ポピュリズム的体制の実態と機能を解明するという観点から、以下のテーマも重要であることが明らかになった。
- (6) 権威主義体制の統治能力、およびポピュリズムの台頭による民主主義体制の統治能力の変化の分析

3. 研究の方法

基本的な研究方法は、各メンバー（研究代表者・分担者・協力者）が文献調査や海外調査で得た知見を持ち寄って検討し合う、メンバー以外の研究者の研究成果や見解を、書評会などで検討する、本研究で開催する国際シンポジウムやワークショップ、および各メンバーが参加する国際学会で、海外の研究者たちと権威主義・ポピュリズムについて議論する、というものであった。多くの研究会等を開いたが、中でも、2019年7月に国際シンポジウム Global Crisis of Democracy? The Rise and Evolution of Authoritarianism and Populism、2021年12月にオンラインの国際ワークショップ Authoritarian Governance: Institutions and Strategiesを開催し、前者ではロベルト・フォア、後者ではダン・スレイターをはじめとする多数の著名な研究者を迎えて、濃密な議論ができた。

方法論としては、権威主義とポピュリズムに関する理論的・概念的な検討を行なったうえで、具体的な国・地域の政治を地域研究的な手法で研究したのちに比較検討し、多数の国を対象としたデータの計量分析と組み合わせた。多国間データとしては、V-Dem (Varieties of Democracy) 研究所の V-Dem および V-Party (Varieties of Party Identity and Organization) が特に重要であった。

研究期間 2 年目の年度末から始まった新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、海外調査や国際研究集会の対面開催が困難になり、各メンバーも所属大学・学会でのコロナ対応に追われたことは、本研究に大きな困難をもたらした。現地調査で得られる生の情報の分析や、海外の研究者との緊密な共同研究が、予定していたほどできていないことは認めざるを得ない。しかし、コロナ禍への世界各国のさまざまな対応ぶりは、権威主義体制とポピュリズムの統治能力という、研究期間 2 年目から重視し始めたテーマの格好の分析材料となり、その点では予期しない成果が得られた。また、2022 年 2 月に本格的に始まったロシアのウクライナ侵略戦争は、権威主義と世界秩序の関係について多くの考察材料を提供した。

4. 研究成果

以下、研究の目的別に得られた知見を述べる。

(1) 権威主義とポピュリズムの関係

ポピュリズムは典型的には自由民主主義体制のもとで出現するため、権威主義とは別の現象として研究されることが多いが、両者には反多元主義と反リベラリズムという共通項がある。また両者とも、多くの場合それ自身が固有のイデオロギーを持つわけではなく、ナショナリズムや開発主義、道徳主義、宗教意識といった既存のイデオロギーないし価値観と接合し、国家資本主義、新自由主義、秩序維持、反腐敗闘争などと相互作用しながら、指導者への権力集中を正当化するものであることも確認できた。

現代政治において反多元主義が力を持つということは、選挙を基盤とする代表制が機能不全をきたすということである。自由民主主義体制のもとで既存の政党や議会全体への不信を利用して勢力を伸ばしたポピュリストは、僅差で選挙に勝てる程度の支持しか得ていなくても、「真の国民」を代表するかのようふるまって反対勢力を攻撃する。権威主義体制のうち国政選挙を行っている国の指導者は、選挙そのものや選挙に至る過程にさまざまな操作を行って、国民からの圧倒的な支持を演出する。このように選挙の意味を歪めつつその結果を盾に取るポピュリスト的ないし権威主義的な指導者が、議会・裁判所など政府から独立した国家機関によるチェック・抑制の機能（水平的アカウンタビリティ）を弱体化させるというパターンが、民主主義の後退や権威主義体制の強化の多くの例に共通して見られることが判明した。

また、権威主義とポピュリズムは決して常に別個に現れるわけではなく、混合形態が見られることに私たちは注目した。反多元主義的なポピュリスト指導者が権威主義的な傾向を持つことは自明であるが、権威主義的な指導者も、政敵を攻撃し、中間エリートの独立性を弱めて国民と直接結びついた指導者としての演出を行う際に、ポピュリズム的な手法や言説を用いることが多い（顕著な例としてロシアのプーチン）。世俗的権威主義が長く続いたトルコでは、それへの反動としてのイスラーム・ポピュリズムを利用したエルドアンが、より強権的な権威主義を構築するに至った。

(2) 世界秩序の変化と、権威主義やポピュリズムの台頭との関係

冷戦後も消滅したわけではないとはいえ民主化の波や圧力に対し守勢であった権威主義的な指導者たちが、自信を深め国内外への影響力を高めるに至ったのは、イラク戦争以降の国際関係における欧米の絶対的優位の崩壊および中国の台頭によるところが大きい。世界秩序の流動化による大国間競争の激化は、非欧米大国の「強い」指導者（習近平、プーチン、モディら）への注目を高め、彼らの政治手法の国際的な伝播を助けた（(5)参照）。欧米と非欧米の力関係が変化する一方で、欧米中心の階層的な国際秩序が崩壊したとは言えず、反欧米主義の動員力が失われていない状況は、非欧米諸国内部の政治勢力の力関係にも影響している。たとえばトルコでは、欧米とつながりの深い世俗派エリートへの反感が、エルドアンの権力強化を助けた。

また、2000年代前半のアメリカ極主義の時代も含め、国際関係の緊張とそれによる「安全保障化」（次項参照）は、権力集中を正当化する要因となった。「カラー革命」や「アラブの春」など、当時は民主化の国際的な拡大と見られた動きは、少なからぬ国でむしろ外からの政治的影響への警戒感強化と「国益」・ナショナリズムの強調につながり、権威主義体制の強化を助けた。こうした動きをアメリカ陰謀論が支えた一方、米日などでは中国陰謀論がポピュリストを勢いづけた。中口などの権威主義的指導者と日米欧のポピュリストの間には対立関係と共犯関係が入り混じっており、特にロシアは民主主義諸国に対する介入の経路としてポピュリストを使おうとした。

歴史的な視点からは、帝國的過去の記憶や経済発展モデルの変化といった問題が、権威主義やポピュリズムの台頭と関係していることが、比較研究によって明らかになった。ロシア、中国、トルコでは、過去の帝国の「栄光」と、大国としての復活を目指す指導者の「強さ」が重ね合わされている。東南アジアで比較的早く工業化した国々は、かつて植民地支配を通じてこの地域に影響を及ぼした欧米諸国の民主主義を参照し、アメリカ非公式帝国の一部として成長してきたが、各国の体制の再生産が行き詰まる中、権威主義が再強化する傾向にあり、国によってはこれがポピュリズム（格差是正のパフォーマンス）や反米主義、中国の影響と関係している。

(3) 社会変動と、権威主義的・ポピュリズム的価値観の関係

ポピュリズムの定義をめぐる混乱（自身エリートである指導者の運動を反エリート主義と呼べるのか否かなど）が示すように、ポピュリズムと権威主義の台頭はさまざまな制度・価値観の揺らぎやそれらへの反感と結びついており、社会変動との関係を一般化して論じるのは難しい。社会の分断・亀裂と関係している例が目立つことは確かだが、分断や亀裂を抱えた社会はいつの時代にも存在しており、それが必然的にポピュリズムや権威主義の台頭をもたらすわけではない。社会的なパトローネージ・システムとの関係も一様ではなく、ロシアやインドの例が示すように、同じ国でも局面によって、指導者が権力を強めるためにパトローネージ・システムを利用する場合も破壊する場合もある。

むしろ、社会の変動を国家や市民の安全の問題としてとらえる「安全保障化」が、ポピュリズムや権威主義の台頭と深く関係していることが比較研究により明らかになった。テロリズムに加え、欧米では移民問題が、非欧米諸国では欧米的なリベラルな価値観の流入も脅威と認識されてきた。各国内の社会的・経済的な混乱（例えばフィリピンの麻薬問題）もまた、国家と市民の安全への脅威として政治化されることが多い。ポピュリストや権威主義的指導者はそうした脅

威に対抗して秩序を回復させる強い指導者への待望を利用してきた。そして、実際にさまざまな問題を権威主義的に解決する「権威主義的紛争マネージメント」の常態化が、権威主義体制の定着を助けてきた。ロシアなどでは、リベラルな価値観に対して道徳的・伝統的価値（多くはその国の歴史と現状を忠実に反映しているわけではない「創られた伝統」）を守るという名目が、自由の制約を正当化してきた。

長期的視野に立てば、全体主義に対する勝利の経験ないし全体主義への反省の風化が、民主主義を尊重する価値観を弱体化させていることが、価値観調査の分析から分かる。特に旧社会主義国では、社会主義体制の崩壊と遺産が複雑な影響を及ぼし続けている。旧ソ連の権威主義的諸国では、ソ連復活を目指すわけではなくとも、ソ連崩壊後の混乱・苦難の記憶も作用して、ソ連時代の社会統制・管理の経験が肯定的に参照されることがある。社会主義時代そのものについては否定的な見方が強い中東欧諸国でも、国家主義的・権威主義的政治文化は残存しており、ドイツでは旧東ドイツ地域におけるそうした政治文化が、右派ポピュリズムの支持基盤の一つとなっていると言われる。

ただし、国民の価値観とポピュリスト的・権威主義的指導者の価値観が必ずしも一致していないこと、国民の側に何らかの政治的「需要」があるにしてもそれがポピュリストや権威主義の「供給」をもたらす過程は一直線ではないということも、本研究の会合で繰り返し指摘されてきた。アメリカ大統領選挙でのトランプ支持に関係していたのは、以前から進んでいた民主党のリベラル化・共和党の保守化を背景とする投票行動の変化であり、必ずしもポピュリスティックな有権者が彼に投票していたというわけではない。権威主義的な国々でも、価値観調査が示すように、国民の強権志向の度合いと政権の権威主義の度合いは明確に相関しておらず、後者には指導者の嗜好やエリート内の力関係が強く影響していることが推測できる。

(4) 議会・政党・選挙・国民投票や行政・司法などの制度が、権威主義とポピュリズムの台頭において持つ意義

(1)で述べたように、権威主義とポピュリズムの台頭には代表制の機能不全が大きく関係している。権威主義的・ポピュリスト的指導者はさまざまなテクニックを駆使して選挙に勝とうとし、特に前者は憲法改正により繰り返し再選されることを可能にして長期政権を維持するなど、制度を利用するが、そのことは同時に、民意の反映としての選挙や法の支配の根幹としての憲法といった制度を骨抜きにする。

特に政党制の意義の変化は、権威主義とポピュリズムの台頭に伴って近年生じた重要な現象である。既存政党への国民の不信を背景として台頭するポピュリズム政党は、指導者個人の人気や意欲に依存し、組織としては不安定であることが多く、選挙における浮沈が、その国の政党政治を不安定なものにする。アメリカではトランプが既存政党である共和党の性格を大きく変えた。ロシアなど選挙を行う権威主義諸国では、2000年代には大統領の権力基盤として支配政党が育成されていることが注目されたが、近年はこれらの政党が指導者個人の権力の陰に置かれ、組織的な自律性は微弱であることが明白になっている。強固な共産党体制を誇る中国でさえ、江沢民・胡錦濤時代に進められた政治運営の制度化が停止され、習近平個人の権力が突出した体制になっている。こうした政治権力の個人化は、単に指導者の恣意によるだけではなく、階級などの集団の固定的な利益やイデオロギーを基盤とした近代政党制が、変化を迫られていることの一つの現れであると言える。

民主主義を毀損しやすいのは大統領制か議院内閣制かという古くからの論争は、権威主義とポピュリズムの台頭を受けても決着がついていない。ファン・リンスの大統領制危険論は本研究のメンバーの間でも一定の支持を得ているが、国際シンポジウムに参加した著名なポピュリズム研究者クルト・ヴァイラントは反対に、法制度が柔軟な議院内閣制における方が民主主義の後退が起きやすいと述べ、さらには民主的な制度が強ければ、ポピュリスト的指導者が出現しても民主主義は簡単には壊れないと主張する。ポピュリズムが騒がれた割には、それによって民主主義体制が決定的に崩壊した例は少ないということを考えれば、大統領制にせよ議院内閣制にせよ民主的制度のレジリエンスは考慮に値する。しかし民主主義の質や安定性が、権威主義とポピュリズムの台頭によって損なわれてきたことも否定できない。結局のところ、権威主義的・ポピュリズム的政治の強度と性質は、制度との関係だけではなく、日々の政治的实践によっても決まるのではないか。このように考えて私たちは、(6)の統治能力の問題を重要なテーマとするようになった。

(5) 権威主義的・ポピュリズム的政治手法に関する、諸国間の模倣・学習・宣伝

先行研究では、権威主義的な国々の自己宣伝や相互の連携による「権威主義の拡散」が注目されていたが、具体的な事例に即した私たちの研究の結果では、さまざまな国の政治家・政権が自発的に他国の手法を模倣・学習する場合や、権威主義的な外国の経済的・国際政治的成功を自国の強権体制の正当化に使う場合が多い。権威主義とポピュリズムの間にも影響・学習関係（反面教師的なものを含む）が見られ、ポピュリストは権威主義的指導者の手法をしばしば学習対象としている。他方、欧米でのポピュリズムの台頭による混乱は、選挙の予見不可能性を中国に印象づけ、一部で試行していた選挙制段階的導入の停止に影響した。

権威主義的手法の学習は、少なからぬ国の権威主義体制が、政治的テクニック、情報技術や選択的な改革によって「進化」し、内外からの民主化の圧力を押し止められるようになったため、

それを他の権威主義的な国々が模倣するという現象でもある。中国は進化した権威主義の例であり、共産党体制という中核部分は他国が容易に模倣できないとはいえ、監視技術などの面は国際的な拡散力を持っている。ただし中国の統治は洗練された面だけではなく暴力的な面を濃厚に持っているし、かつては進化した権威主義の例と見られていたシリアやロシアは、それぞれ「アラブの春」とクリミア併合以降、粗暴化している（ロシアの場合はウクライナへの本格的な侵攻開始以降特に顕著に）。このような暴力的な統治が国際的に許容されるという態度を一部の国々が共有していることも、近年明確化してきた問題である。

(6) 権威主義体制の統治能力、およびポピュリズムの台頭による民主主義体制の統治能力の変化
現在の世界ではどの国でも、経済的アクターと社会的利害の多様化が見られ、権威主義的な国であっても、社会の状況に関する情報収集を行い、多様なニーズをくみ上げることなしには、安定した統治を行うことは難しい。実際に多くの国で、政権批判を抑制しつつ社会のニーズに対応し利害調整を行うためのさまざまな取り組みが行われている。そのための手段としては、ITなどの技術の導入のほか、統制のもとで市民や有識者を行政に参加させるさまざまな協議・諮問組織が使われており、中国政治研究などでは「参加型権威主義」とも呼ばれる。また、一種のポピュリズム的な手法を取り入れて、腐敗エリートを標的とした汚職取り締まりが行われている国も多い。こうした取り組みの結果、権威主義的な国々の一部は、ガバナンスや応答性を緩やかに向上させている。(1)で述べたように、権威主義は水平的アカウンタビリティを弱体化させ、垂直的アカウンタビリティを骨抜きにするが、政権中枢の責任を問われることを回避した擬似的・非自由主義的なアカウンタビリティは成立しうる。

しかし、権威主義的なガバナンスやアカウンタビリティには大きな限界がある。そのことを可視化したのが新型コロナウイルス問題であった。数字のうえでは、権威主義的な国の方が民主主義国よりコロナの感染者数・死者数が少ない傾向があり、一時はこれが権威主義的統治の優位性を示すかのように言われたが、実際にはこれはデータ収集の不備や意図的な隠蔽の結果であり、多くの権威主義的な国々が医療・保健体制や行政能力に深刻な問題を抱えていることが判明した。特にポピュリスティックかつ権威主義的な指導者は、実効的な対策よりもイメージやパフォーマンスに頼りがちである。コロナ対応で鍵となるのは国家の社会に対する浸透力であり、中国の居民委員会やウズベキスタンのマハツラ委員会のような、権威主義的統制下での住民自治組織が一定の有効性を発揮する場合もあったが、それでも政府が強制力に著しく頼ったり恣意的な対応を取ったりする局面が目立った。

結局、その国の所与の政治的・社会的・経済的条件の中で、統治能力を高めるために権威主義体制が相対的な有効性を多少発揮しうることは否定できないものの、統治能力を決定づける主な要因は所与の条件そのものであり、権威主義体制の統治能力は国によって著しく異なる。また、ロシアのウクライナ侵略戦争が示すように、現在の権威主義体制の主流をなす個人支配は、指導者個人の嗜好や感情に大きく依存しており、野心によって無謀な政策を国内外で展開すれば、統治も暴力化・非合理化することになる。ただし、統治能力の高低が国民やエリートの支持・不支持にどのくらい影響するかも各国のさまざまな条件によって異なっており、統治能力はその国の政治体制の特徴をよく表すものではあっても、持続・崩壊とは必ずしも直結しない。

他方、民主主義的な国々がポピュリズムを通じて権威主義に近づけば、官僚機構や法の支配の弱体化によって統治能力が下がることは、ほぼ共通するパターンとして観察できる。民主的な制度が十分に強くない国であれば、これは準権威主義体制の確立につながりうるが、民主的な制度が長年にわたり確立してきた国では、ポピュリズムは民主主義の質や安定性に傷をつける反面、ポピュリズム政権自体は長く持続しにくい。

以上、本研究では、従来の研究にありがちだった、自由民主主義の基準を重視するあまり非民主主義体制の国別の特徴を軽視する傾向や、逆に一国の研究に閉じこもり比較を疎かにする傾向、またメディアでの議論によく見られるリーダーの個性や経済危機の過度の重視も避けながら、権威主義とポピュリズムを世界秩序・国際関係、社会変動、価値観、制度などの多様な視点から比較分析した。また、従来あまり注目されてこなかった、権威主義とポピュリズムの相互関係や統治能力の問題について、独自の研究を行った。そこから、権威主義体制の強さと弱さや、ポピュリズムの台頭によって民主主義のどの側面が毀損されるのか、また各国の所与の条件と権威主義的・ポピュリズム的体制の性質や統治能力との関係について、多面的な知見が得られた。現在、統治能力の問題を中心に本研究の成果をまとめる論集を準備している。

2023年現在、ウクライナ侵略戦争への対応によって欧米を中心とする自由民主主義国の団結が回復し、ポピュリズムによる権威主義化の傾向には歯止めがかかっているが、各国の民主主義の不安定要因が消えたわけでは決してない。また、権威主義諸国におけるさらなる強権化の傾向も、減速しているが止まっていない。権威主義とポピュリズムの背景・実態・機能を、極力予見を排して多角的に分析した本研究の成果は、今後の各国政治・比較政治・国際政治の研究のためにも、権威主義とポピュリズムに対する実践的な対処を考えるためにも有益であると思われる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計91件（うち査読付論文 24件 / うち国際共著 9件 / うちオープンアクセス 26件）

1. 著者名 Uyama Tomohiko	4. 巻 12 (1)
2. 論文標題 (Origins of the Differences in Political Systems of the Central Asian States: Threat Perception in the Perestroika Period)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 (Journal of International Analytics)	6. 最初と最後の頁 55-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.46272/2587-8476-2021-12-1-55-73	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宇山 智彦	4. 巻 106
2. 論文標題 書評 熊倉潤著『民族自決と民族団結：ソ連と中国の民族エリート』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ロシア史研究	6. 最初と最後の頁 132-139
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宇山 智彦	4. 巻 64
2. 論文標題 クルグズスタン (キルギス) の波乱の30年：エリートの分裂による不安定な「民主主義」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ユーラシア研究	6. 最初と最後の頁 32-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宇山 智彦	4. 巻 69
2. 論文標題 中央アジア「国際テロ」と「グレートゲーム」の虚実：アフガニスタン近隣諸国の多様な国益	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 外交	6. 最初と最後の頁 44-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Uyama Tomohiko	4. 巻 104
2. 論文標題 Recommendations for Responding to the Current Situation in Afghanistan: From the Perspective of an Expert on Central Asia	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 GFJ Commentary (Web)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宇山 智彦	4. 巻 1015
2. 論文標題 学問の自由と有用性・効率性の間で：科学者代表機関の役割の歴史と現在	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 185-195
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宇山 智彦	4. 巻 -
2. 論文標題 不安定だが大きな脅威ではない隣人：中央アジアから見たアフガニスタン	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 nippon.com (Web)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宇山 智彦	4. 巻 -
2. 論文標題 中央アジアの新型コロナ問題と国際関係：減速する世界？	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 川島真、池内恵編『新興国から見るアフターコロナの時代：米中対立の間に広がる世界』東京大学出版会	6. 最初と最後の頁 157-170
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Uyama Tomohiko	4. 巻 -
2. 論文標題 Is Afghanistan Really Exporting Terror to Central Asia?	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The Diplomat (Web)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宇山 智彦	4. 巻 71
2. 論文標題 カザフスタン動乱にみる国民の不满と権力闘争：ナザルバエフ体制解体の試練	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 外交	6. 最初と最後の頁 73-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Uyama Tomohiko	4. 巻 2022 (1)
2. 論文標題 Unmasking imperial history: Emotional Empire, Violent Politics of Difference, and Independence Movements in the Name of Autonomy	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Ab Imperio	6. 最初と最後の頁 121-126
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1353/imp.2022.0012	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宇山 智彦	4. 巻 -
2. 論文標題 感情とイメージの地政学：ロシア・ウクライナ紛争とアフガニスタン情勢に寄せて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 渡邊 啓貴 監修『ユーラシア・ダイナミズムと日本』中央公論新社	6. 最初と最後の頁 111-127
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宇山 智彦	4. 巻 -
2. 論文標題 なぜプーチン政権の危険性は軽視されてきたのか：国際情勢分析と認知バイアス	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター・ウェブサイト	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宇山 智彦	4. 巻 955
2. 論文標題 ロシアは何をめぐってウクライナ・米欧と対立しているのか	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 學士會会報	6. 最初と最後の頁 16-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宇山 智彦	4. 巻 -
2. 論文標題 ロシアは非欧米諸国に支持されているのか？ ウクライナは譲歩すべきなのか？	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本国際フォーラム「ユーラシアダイナミズムと日本外交」研究会コメントリー (Web)	6. 最初と最後の頁 1-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宇山 智彦	4. 巻 -
2. 論文標題 ウクライナ侵攻は中央アジアとロシアの関係をどう変えるか：戸惑い・危惧と変化への胎動	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 池内恵、宇山智彦ほか『UP plus ウクライナ戦争と世界のゆくえ』東京大学出版会	6. 最初と最後の頁 97-106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宇山 智彦	4. 巻 1064
2. 論文標題 中央アジア諸国の曖昧な強権体制：ソ連崩壊の残響と国家間競争の中で	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ロシア・ユーラシアの社会	6. 最初と最後の頁 3-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宇山 智彦	4. 巻 37
2. 論文標題 ウクライナと中央ユーラシア：歴史的関係とロシアによる侵略戦争の衝撃	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 内陸アジア史研究	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Uyama Tomohiko	4. 巻 -
2. 論文標題 Similarities Between Putin's Russia and Late Imperial Japan: Backgrounds and Implications	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 NYU Jordan Center Blog (Web)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Uyama Tomohiko	4. 巻 22 (1)
2. 論文標題 :	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 (Russian Sociological Review)	6. 最初と最後の頁 61-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.17323/1728-192X-2023-1-61-71	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 西川 賢	4. 巻 2021
2. 論文標題 アメリカ政治における政治的分極化	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 横幹連合コンファレンス予稿集	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11487/oukan.2021.0_A-5-2	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Cheng John W., Nishikawa Masaru	4. 巻 37 (12)
2. 論文標題 Effects of Health Literacy in the Fight Against the COVID-19 Infodemic: The Case of Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Health Communication	6. 最初と最後の頁 1520-1533
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/10410236.2022.2065745	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Kunihiro Miyazaki, Taichi Murayama, Akira Matsui, Masaru Nishikawa, Takayuki Uchiba, Haewoon Kwak, Jisun An	4. 巻 -
2. 論文標題 Political Honeymoon Effect on Social Media: Characterizing Social Media Reaction to the Changes of Prime Minister in Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 arXiv	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.48550/arXiv.2212.02827	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Sawae Fumiko	4. 巻 -
2. 論文標題 Populism and the Politics of Belonging in Erdogan 's Turkey	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 M. Hakan Yavuz & Ahmet Erdi Ozturk, eds., Erdogan 's Turkey: Islamism, Identity and Memory, Routledge	6. 最初と最後の頁 21-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 澤江 史子	4. 巻 -
2. 論文標題 ポストコロナな挑戦としてのイスラーム主義の失敗？ サルマン・サイドを手掛かりにトルコについて考える	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 澤江史子編『グローバルな認識論的権力関係の中のイスラームと日本』上智大学イスラーム研究センター	6. 最初と最後の頁 49-87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田 徹	4. 巻 -
2. 論文標題 ポスト・グローバル時代のフランス	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 岩崎正洋編『ポスト・グローバル化と国家の変容』ナカニシヤ出版	6. 最初と最後の頁 107-177
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田 徹	4. 巻 -
2. 論文標題 英仏米のリーダーシップ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 岩崎正洋・松尾秀哉・岩坂将充編『よくわかる比較政治学』ミネルヴァ書房	6. 最初と最後の頁 190-192
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田 徹、村上 裕一	4. 巻 16
2. 論文標題 「強い国家」ゆえの脆弱性？ コロナ危機とフランス政治行政	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日仏政治研究	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田 徹	4. 巻 -
2. 論文標題 デモクラシー：「自由×民主主義」の融解？	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 駒村圭吾編『Liberty 2.0』弘文堂	6. 最初と最後の頁 300-330
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大串 敦	4. 巻 741
2. 論文標題 プーチン体制の安定性	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 修親	6. 最初と最後の頁 6-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大串 敦	4. 巻 -
2. 論文標題 ソ連はなぜ崩壊したのか	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 歴史学会編『歴史総合：世界と日本』戎光祥出版	6. 最初と最後の頁 200-208
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大串 敦	4. 巻 -
2. 論文標題 ソ連解体（1991年）：新同盟の模索と挫折	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 岩間陽子、君塚直隆、細谷雄一編『ハンドブックヨーロッパ外交史：ウェストファリアからブレグジットまで』ミネルヴァ書房	6. 最初と最後の頁 196-201
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大串 敦	4. 巻 955
2. 論文標題 ウクライナ侵攻：「勝者なき紛争」がなぜ起こったか	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 世界	6. 最初と最後の頁 42-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大串 敦	4. 巻 67
2. 論文標題 ロシアの政策決定過程とウクライナ侵攻：ブラックボックスの中	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ロシアNIS調査月報	6. 最初と最後の頁 20-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大串 敦	4. 巻 661
2. 論文標題 求心的多頭競合体制から中央・地方遊離型ポピュリスト体制へ：2014年以後のウクライナ政治体制の変容と対露関係	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東亜	6. 最初と最後の頁 10-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加茂 具樹	4. 巻 69 (4)
2. 論文標題 中国共産党による支配をめぐる二つの問い：なぜ支配は続くのか。なぜ自己主張の強い対外行動を選択するのか	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 海外事情	6. 最初と最後の頁 24-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宇野 重規, 江口 伸吾, 加茂 具樹, 李 曉東, 堀口 正, 遠藤 誠治, 佐藤 壯, 唐 燕霞	4. 巻 57
2. 論文標題 座談 中国共産党とガバナンス	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中国21	6. 最初と最後の頁 5-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加茂 具樹	4. 巻 -
2. 論文標題 中国共産党一党支配をめぐる問い	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 加茂具樹編著『中国は「力」をどう使うのか：支配と発展の持続と増大するパワー』—藝社	6. 最初と最後の頁 10-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加茂 具樹	4. 巻 -
2. 論文標題 権威主義の台頭と民主主義の後退	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 神保謙・廣瀬陽子編著『流動する世界秩序とグローバルガバナンス』慶應義塾大学出版会	6. 最初と最後の頁 9-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加茂 具樹	4. 巻 -
2. 論文標題 権力が正統性を創る中国政治	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 呉国光著 (加茂具樹監訳) 『権力の劇場 中国共産党大会の制度と運用』中央公論社	6. 最初と最後の頁 465-484
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Suzuki Ayame	4. 巻 5
2. 論文標題 State's Capacity and Scope Do Matter: Data Exploration and Case Studies of Selected Southeast Asian Countries	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 De Lasalle University Arts Congress Proceedings	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Higashijima Masaaki	4. 巻 22
2. 論文標題 Blatant electoral fraud and the value of a vote	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Japanese Journal of Political Science	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/S1468109921000037	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 東島 雅昌	4. 巻 62 (4)
2. 論文標題 多国間統計分析と国内事例研究による混合手法：分析アプローチとしての発展と方法論的限界への処方箋	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 アジア経済	6. 最初と最後の頁 49-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24765/ajiakeizai.62.4_49	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Chang Eric C.C., Higashijima Masaaki	4. 巻 58
2. 論文標題 The Choice of Electoral Systems in Electoral Autocracies	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Government and Opposition	6. 最初と最後の頁 106-128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/gov.2021.17	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Annaka Susumu, Higashijima Masaaki	4. 巻 147 (105614)
2. 論文標題 Political liberalization and human development: Dynamic effects of political regime change on infant mortality across three centuries (1800-2015)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 World Development	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.worlddev.2021.105614	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Higashijima Masaaki, Kasuya Yuko	4. 巻 57 (2)
2. 論文標題 The Perils of Parliamentarism: Executive Selection Systems and Democratic Transitions from Electoral Authoritarianism	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Studies in Comparative International Development	6. 最初と最後の頁 198-220
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s12116-022-09350-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 東島 雅昌、鷲田 任邦	4. 巻 24
2. 論文標題 クライアントリズムと民主化: 政党レベルデータによる多国間統計分析	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 比較政治学会年報	6. 最初と最後の頁 3-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 HIGASHIJIMA Masaaki, WOO Yujin	4. 巻 Online First
2. 論文標題 Measuring National Refugee Policies: Recent Trends and Implications for Future Development	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Interdisciplinary Information Sciences	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4036/iis.2022.R.05	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Higashijima Masaaki, Kerr Nicholas	4. 巻 Online First
2. 論文標題 When Does the Honeymoon End? Electoral Cycles of Satisfaction With Democracy in Africa	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Political Psychology	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/pops.12878	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 宇山 智彦	4. 巻 201
2. 論文標題 ベレストロイカ期中央アジアにおける共和国の自立と民族問題の関係: 「政治の場」の浮上と遠心化・多様化	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国際政治	6. 最初と最後の頁 98-113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11375/kokusaiseiji.201_98	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宇山 智彦	4. 巻 61 (3)
2. 論文標題 比較政治学における中央アジア研究の成果・可能性・課題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アジア経済	6. 最初と最後の頁 62-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24765/ajiakeizai.61.3_61	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宇山 智彦	4. 巻 161
2. 論文標題 人民の要求か、裏切られた革命か: クルグズスタン (キルギス) の2020年政変	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 スラブ・ユーラシア研究センターニュース	6. 最初と最後の頁 11-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ogushi Atsushi	4. 巻 72 (10)
2. 論文標題 The Opposition Bloc in Ukraine: A Clientelistic Party with Diminished Administrative Resources	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Europe-Asia Studies	6. 最初と最後の頁 1639-1656
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/09668136.2020.1770701	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大串 敦	4. 巻 63
2. 論文標題 プーチン体制長期化が示すもの	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 外交	6. 最初と最後の頁 114-119
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sawae Fumiko	4. 巻 29 (3)
2. 論文標題 Populism and the Politics of Belonging in Erdogan 's Turkey	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Middle East Critique	6. 最初と最後の頁 259-273
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/19436149.2020.1770443	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ishii Akira, Okano Nozomi, Nishikawa Masaru	4. 巻 9
2. 論文標題 Social Simulation of Intergroup Conflicts Using a New Model of Opinion Dynamics	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Frontiers in Physics	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fphy.2021.640925	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西川 賢	4. 巻 -
2. 論文標題 戦後日米同盟の危機とレジリエンス：安倍 = トランプ政権下での日米同盟の 二つのシナリオと危機対応策	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東大社研、保城 広至編『国境を越える危機・外交と制度による対応：アジア太平洋と中東』東京大学出版会	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yoshida Toru	4. 巻 -
2. 論文標題 Parliaments in an age of populism	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Cyril Benoit & Olivier Rozenberg, eds., Handbook of Parliamentary Studies, Edward Elgar Publishing	6. 最初と最後の頁 291-303
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田 徹	4. 巻 71 (2)
2. 論文標題 極右に投票する労働者：歴史的ヘゲモニー・ブロックの崩壊？	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 年報政治学	6. 最初と最後の頁 37-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.7218/nenpouseijigaku.71.2_37	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加茂 具樹	4. 巻 635
2. 論文標題 感染症と習近平指導部：新型コロナ対策の政策過程	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東亜	6. 最初と最後の頁 2-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加茂 具樹	4. 巻 66 (3)
2. 論文標題 継承された改革と継承されなかった改革：中国共産党が提起した社会協商対話制度と協商民主制度	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アジア研究	6. 最初と最後の頁 68-85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11479/asianstudies.66.3_68	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Suzuki Ayame	4. 巻 -
2. 論文標題 The Philippines' Response to COVID-19: Limits of State Capacity	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Corona Chronicle: Voices from the Field (CSEAS, Kyoto University)	6. 最初と最後の頁 (Internet)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木 絢女	4. 巻 3
2. 論文標題 マレーシアの国家建設：エリートの生成と再生産	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 田中 明彦、川島 真 編著『20世紀の東アジア史』東京大学出版会	6. 最初と最後の頁 277-322
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木 絢女	4. 巻 -
2. 論文標題 「主権国家」の合理性と政治統合	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 石戸 光、鈴木 絢女 編『グローバル関係学3 多元化する地域統合』岩波書店	6. 最初と最後の頁 162-184
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Higashijima Masaaki and Yu Jin Woo	4. 巻 34
2. 論文標題 Political Regimes and Refugee Entries: Motivations behind Refugees and Host Governments	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 V-Dem User 's Working Paper Series	6. 最初と最後の頁 1-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Cristina Bodea, Carolina Garriga, and Higashijima Masaaki	4. 巻 -
2. 論文標題 Central Bank Independence and the Fate of Authoritarian Regimes	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Ernest Gnan and Donato Masciandaro eds., Populism, Economic Policies, and Central Banking, SUERF	6. 最初と最後の頁 161-179
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Higashijima Masaaki	4. 巻 22
2. 論文標題 Blatant electoral fraud and the value of a vote	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Japanese Journal of Political Science	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/s1468109921000037	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 東島 雅昌	4. 巻 -
2. 論文標題 解説 変貌する権威主義、適応する独裁者	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 エリカ・フランツ (上谷・今井・中井訳) 『権威主義』白水社	6. 最初と最後の頁 187-197
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木 恵美	4. 巻 -
2. 論文標題 エジプトのリビア介入の諸要因：グローバルな危機の拡大とその影響	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 松永 泰行 編『グローバル関係学2「境界」に現れる危機』岩波書店	6. 最初と最後の頁 41-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宇山智彦	4. 巻 6月号
2. 論文標題 カザフスタンのナザルバエフ「院政」：旧ソ連諸国における権力継承の新モデル？	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ロシアNIS調査月報	6. 最初と最後の頁 43-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宇山智彦	4. 巻 -
2. 論文標題 近代帝国間体系のなかのロシア：ユーラシア国際秩序の変革に果たした役割	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 秋田茂編『グローバル化の世界史（MINERVA世界史叢書2）』ミネルヴァ書房	6. 最初と最後の頁 211-240
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大串敦	4. 巻 922号
2. 論文標題 ウクライナ大統領選：圧勝の背景	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 世界	6. 最初と最後の頁 18-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加茂具樹	4. 巻 685号
2. 論文標題 共産党一党支配は「強靱」であり続けるのか：多元化する社会において一元的な政治を堅持する術	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国際問題	6. 最初と最後の頁 5-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 YOSHIDA Toru	4. 巻 Online
2. 論文標題 Populism "Made in Japan": A New Species?	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Asian Journal of Comparative Politics	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/2057891119844608	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宇山智彦	4. 巻 -
2. 論文標題 現代政治史：歴史的背景・ソ連の遺産と独立国家建設	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 宇山智彦、樋渡雅人編『現代中央アジア：政治・経済・社会』日本評論社	6. 最初と最後の頁 3-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宇山智彦	4. 巻 vol. 1
2. 論文標題 ユーラシア地政学の縮図としての中央アジア	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 JFIR WORLD REVIEW	6. 最初と最後の頁 38-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宇山智彦	4. 巻 12月号
2. 論文標題 中央アジアと中国の関係の現実的な理解のために	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東亜	6. 最初と最後の頁 30-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宇山智彦	4. 巻 4月号
2. 論文標題 進化する権威主義：なぜ民主主義は劣化してきたのか	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 世界	6. 最初と最後の頁 89-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tomohiko Uyama	4. 巻 no. 79
2. 論文標題 Eurasia's Comeback as the Pivot of the World Order: Its Meaning and Significance,	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 GFJ Commentary	6. 最初と最後の頁 (online)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 西川賢	4. 巻 第20号
2. 論文標題 なぜトランプは支持されたのか：先行学説の整理と検討	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本比較政治学会年報 (『分断社会の比較政治学』)	6. 最初と最後の頁 57-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大串敦	4. 巻 第676号
2. 論文標題 全人民の指導者：プーチン政権下のロシア選挙権威主義	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国際問題	6. 最初と最後の頁 5-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大串敦	4. 巻 -
2. 論文標題 重層的マシーン政治からポピュリスト体制への変容か：ロシアにおける権威主義体制の成立と変容	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 川中豪編『後退する民主主義、強化される権威主義：最良の政治制度とは何か』ミネルヴァ書房	6. 最初と最後の頁 159-188
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tomoki Kamo	4. 巻 vol. 7, no. 1
2. 論文標題 Chinese People's Liberation Army in China's people's congresses: how the PLA utilizes people's congresses	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Contemporary East Asia Studies	6. 最初と最後の頁 35-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/24761028.2018.1498313	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 加茂具樹	4. 巻 2月号
2. 論文標題 持続する支配：多元化する社会に向き合う中国共産党	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東亜	6. 最初と最後の頁 30-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田 徹	4. 巻 第2号
2. 論文標題 フランス大統領選とナショナル・ポピュリズム	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 憲法研究	6. 最初と最後の頁 72-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 澤江史子	4. 巻 -
2. 論文標題 トルコ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 「中東・イスラーム諸国の政治変動」データベース	6. 最初と最後の頁 (online)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 澤江史子	4. 巻 3月号
2. 論文標題 2019年3月31日統一地方選挙に向かうトルコ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中東協力センターニュース	6. 最初と最後の頁 10-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Cristina Bodea, Ana Carolina Garriga, Masaaki Higashijima	4. 巻 vol. 81, no. 2
2. 論文標題 Economic Institutions and Autocratic Breakdown: Monetary Constraints and Fiscal Spending in Dominant-Party Regimes	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The Journal of Politics	6. 最初と最後の頁 601-615
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1086/701831	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Masaaki Higashijima, Christian Houle	4. 巻 vol. 40, no. 4
2. 論文標題 Ethnic Inequality and the Strength of Ethnic Identities in Sub-Saharan Africa	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Political Behavior	6. 最初と最後の頁 909-932
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11109-017-9430-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 鈴木絢女	4. 巻 10月号
2. 論文標題 マレーシアの長期政権：起源、発展、溶解、終焉	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東亜	6. 最初と最後の頁 18-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木恵美	4. 巻 -
2. 論文標題 エジプトとロシアの関係強化の現状と背景	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 安全保障政策のリアリティ・チェック：新安保法制・ガイドラインと朝鮮半島・中東情勢	6. 最初と最後の頁 85-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計72件(うち招待講演 39件/うち国際学会 45件)

1. 発表者名 宇山 智彦
2. 発表標題 学問の自由と有用性・効率性の間で：科学者代表機関の役割の歴史と現在
3. 学会等名 歴史学研究会大会特設部会(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Uyama Tomohiko
2. 発表標題 A Northern Global South or a Global East? Post-Soviet Area Studies in the Age of Neoliberalism and Great Power Competition
3. 学会等名 SSEES & SRC Seminar “Rethinking Slavic Area Studies from the Opposite Edges of Eurasia” (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 宇山 智彦
2. 発表標題 中央アジア諸国の曖昧な強権体制：ソ連崩壊の残響と国家間競争の中で
3. 学会等名 ユーラシア研究所総合シンポジウム「ソ連解体後の30年」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Uyama Tomohiko
2. 発表標題 Non-coordinated but Harmonized Coexistence of China and Russia in Third Countries: The Case of Central Asia
3. 学会等名 GMF Workshop “Crafting Shared Approaches to China-Russia Relations” (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Uyama Tomohiko
2. 発表標題 How to Make the International Community of Central Asian Studies Coherent? Overcoming the Gap between the Western-centrism and Nationalism
3. 学会等名 University of Tsukuba Special Lecture and Discussion Series “Central Eurasian Studies in East Asia and Beyond” (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 宇山 智彦
2. 発表標題 プーチンの歴史観：非合理的な侵攻の動機は何か
3. 学会等名 日本国際フォーラム緊急座談会「ロシアのウクライナ侵攻を考える：国際社会に与えた衝撃と今後の課題」（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 宇山 智彦
2. 発表標題 ロシアのウクライナ侵攻から東アジアは何を学ぶべきか
3. 学会等名 第28回日韓有識者政策対話（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 宇山 智彦
2. 発表標題 集団安全保障条約機構（CSTO）とウクライナ・中央アジア情勢
3. 学会等名 日本防衛学会第3回研究分科会「ユーラシアから見るロシアのウクライナ侵略」（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Uyama Tomohiko
2. 発表標題 :
3. 学会等名 : "（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 宇山 智彦
2. 発表標題 Are 21st Century Imperialism and Authoritarianism Different from Those of the 20th Century? Reflecting on Emotional Geopolitics in Eurasia
3. 学会等名 Slavic-Eurasian Research Center 2022 Summer International Symposium “An Anarchist Turn? Imperial Rule and Resistance in the Long Twentieth Century” (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 宇山 智彦
2. 発表標題 日本の中央アジア外交の方向性：アジア開発援助外交からグローバル課題への取り組みへ
3. 学会等名 キルギス共和国日本外交関係樹立30周年記念「2022日本学・日本語教育国際研究大会」基調講演(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 宇山 智彦
2. 発表標題 中央アジアから見たウクライナ侵略戦争：危機感と「通常運転」の間で
3. 学会等名 日本学術会議アジア研究・対アジア関係に関する分科会公開シンポジウム「アジアから見たウクライナ戦争」(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Uyama Tomohiko
2. 発表標題 Japan's Central Asian Diplomacy: Regionalism, Universalism, and Geopolitics
3. 学会等名 Special lecture at Tashkent State University of Oriental Studies (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Uyama Tomohiko
2. 発表標題 Post-Soviet International Relations in the Contexts of Decolonization, Regionalization, and Globalization
3. 学会等名 Special lecture at University of World Economy and Diplomacy, Tashkent (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 宇山 智彦
2. 発表標題 ソ連帝国の複雑な影：ロシア・ウクライナ・中央アジア
3. 学会等名 日本学術会議学術フォーラム「地球規模のリスクに立ち向かう地域研究：ウクライナ危機に多角的に迫る」(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 宇山 智彦
2. 発表標題 ロシアはなぜウクライナに侵攻したのか：帝国・大国論の視点から
3. 学会等名 東京経済大学SDGsシンポジウム「ウクライナ危機・戦争：なぜ起こったのか、どう理解すべきか、何をなすべきか」(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Uyama Tomohiko
2. 発表標題 The Image of China in Central Asia and Cross-border Human Mobility
3. 学会等名 International Workshop “Shared Histories and Imperial Encounters in North-East Asia” at Amherst College (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 宇山 智彦
2. 発表標題 カスピ海の可能性：歴史的視点から
3. 学会等名 「中央アジア+日本」対話・第12回東京対話「中央アジア・コーカサスとの連結性」基調講演（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 宇山 智彦
2. 発表標題 非欧米世界から考えるウクライナ侵略戦争後の世界秩序：「無責任な多極」と「無反省な一極」を超えて
3. 学会等名 JFIR公開セミナー「ウクライナ戦争2年目の行方：日本、そして国際社会の役割」（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Ogushi Atsushi
2. 発表標題 Changing Political Cleavages in Ukraine
3. 学会等名 10th World Congress, International Council for Central and East European Studies (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大串 敦
2. 発表標題 脆弱な中央・強靱な地方：独立後ウクライナの政治構造
3. 学会等名 日本国際政治学会2022年度研究大会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Ogushi Atsushi
2. 発表標題 Inside the Black Box: How Did the Kremlin Decide the Military Interventions in Crimea, Donbass, and Ukraine?
3. 学会等名 The 11th East Asian Conference on Slavic Eurasian Studies (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Nishikawa Masaru
2. 発表標題 How Populistic were the Populists in the 19th Century America? Analysis by Automated Textual Analysis
3. 学会等名 American Political Science Association (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 石井晃・岡野のぞみ・山本仁志・西川賢
2. 発表標題 オピニオンダイナミクスと政治学への応用
3. 学会等名 日本選挙学会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 John William Cheng and Masaru Nishikawa
2. 発表標題 Health Literacy: A Vaccine for the COVID-19 Infodemic?
3. 学会等名 情報通信学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Masaru Nishikawa and Akira Ishii
2. 発表標題 Simulation of Intragroup Alignment using a New Model of Opinion Dynamics
3. 学会等名 Intelligent Systems Conference (IntelliSys) 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 John W. Cheng, Masaru Nishikawa, Ikuma Ogura, Nicholas A. R. Fraser
2. 発表標題 Put Your Money Where Your Mouth Is: Willingness to Pay for Online Conspiracy Theory Content - Evidence from Japan
3. 学会等名 Midwest Political Science Association (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 John. W. Cheng, Masaru Nishikawa
2. 発表標題 Sentiment of COVID-19 conspiracy theory and anti-vaccine endorsements: A text analysis of book reviews on Amazon Japan
3. 学会等名 情報通信学会大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 吉田 徹
2. 発表標題 冷戦終結の「始末」：フランス・ミッテラン大統領による「欧州連邦構想」の出自と帰結
3. 学会等名 日本政治学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Higashijima Masaaki
2. 発表標題 Disguising as Democrats: The Origins and Outcomes of Partially Independent EMBs in Autocracies
3. 学会等名 Pre-IPSA Workshop of the Electoral Integrity Project (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Higashijima Masaaki, Annaka Susumu, and Kato Gento
2. 発表標題 Public Information and Mass Reaction in Autocracies: Information Correction Experiment on COVID-19 in Kazakhstan
3. 学会等名 Asian Politics Online Seminar Series (APOSS) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Higashijima Masaaki
2. 発表標題 Popular Protests and Elite-Mass Linkage in Autocracies: Observational and Experimental Evidence from Kazakhstan
3. 学会等名 Virtual Workshop on Authoritarian Regimes (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Higashijima Masaaki
2. 発表標題 Political Liberalization and Human Development: Long-Term Benefits of Democracy on Infant Mortality
3. 学会等名 Case for Democracy Conference in Brussels (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Higashijima Masaaki
2. 発表標題 Tutelary Power and Autocratic Legitimacy: Experimental Evidence from Kazakhstan's Diarchy
3. 学会等名 京都大学 国際政治経済研究会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Higashijima Masaaki
2. 発表標題 Unpacking Authoritarian Political Parties: What Party Structures Reveal About Party Strategies and Patterns of Survival
3. 学会等名 American Political Science Association Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Higashijima Masaaki
2. 発表標題 Growth or Virus? Anti-Virus Policy, Fiscal Stimulus, and Democratic Advantages in the COVID-19 Pandemic
3. 学会等名 日本政治学会2022年度年次大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 東島 雅昌
2. 発表標題 民主主義を装う権威主義: 世界化する選挙独裁とその論理
3. 学会等名 仙台白百合女子大学 人間発達研究センター主催講演会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Adrian del Rio and Higashijima Masaaki
2. 発表標題 Elite Divisions, Party Origins, and Political Liberalization in Autocracies
3. 学会等名 Authoritarian Political Systems Group (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Higashijima Masaaki
2. 発表標題 The Dictator's Dilemma at the Ballot Box: Electoral Manipulation, Economic Maneuvering, and Political Order in Autocracies
3. 学会等名 University of Florida (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Suzuki Ayame
2. 発表標題 Stern but not Strong: Assessing State Capacity through COVID-19 Responses in Selected Southeast Asian States
3. 学会等名 Authoritarian Governance: Institutions and Strategies (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 宇山 智彦
2. 発表標題 中央アジア諸国の権威主義体制
3. 学会等名 シンポジウム「権威主義体制の比較：多様性と共通性」、東京大学先端科学技術研究センター (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 宇山 智彦
2. 発表標題 勢力圏の囲い込みか、開かれた地域主義か：権威主義諸国主導の地域協力をめぐって
3. 学会等名 比較経済体制学会全国大会共通論題（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Nishikawa Masaru
2. 発表標題 How Populistic were the Populists in the 19th Century America? Analysis by Automated Textual Analysis
3. 学会等名 2021 Annual Meeting of the Southern Political Science Association（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yoshida Toru
2. 発表標題 Putting New Wine into Old Bottles? Institutions and Actors behind Japanese Populism
3. 学会等名 Populism in East Asian Democracies, Duisburg Essen University, Institute of East Asian Studies（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yoshida Toru
2. 発表標題 La politique ecomique Japonaise face a la COVID 19
3. 学会等名 Les Rendez-vous Gerin-Lajoie, Universite du Quebec a Montreal（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Suzuki Ayame
2. 発表標題 State's Capacity and Scope Do Matter: Data Exploration and Case Studies of Selected Southeast Asian Countries
3. 学会等名 14th DLSU Arts Congress (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Higashijima Masaaki and Yu Jin Woo
2. 発表標題 Political Regimes and Refugee Entries
3. 学会等名 Asian Online Political Science Seminar Series (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 UYAMA Tomohiko
2. 発表標題 Regionalism and Universalism in Japanese Foreign Policy: Implications for Central Asia
3. 学会等名 Guest Lecture at the American University of Central Asia (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宇山智彦
2. 発表標題 ペレストロイカ期の中央アジアをどう見るか：「政治の場」としての共和国の自立における紛争の役割
3. 学会等名 ロシア史研究会2019年度大会共通論題 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1 . 発表者名 UYAMA Tomohiko
2 . 発表標題 Authoritarianism and Nationalism in Central Asia: Do Political Regime and Foreign Relations Correlate?
3 . 学会等名 Central Eurasian Studies Society 2019 Annual Conference (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 UYAMA Tomohiko
2 . 発表標題 Authoritarianism and Nationalism in Central Asia: Do Political Regime and Foreign Relations Correlate?
3 . 学会等名 Slavic-Eurasian Research Center International Symposium "Global Crisis of Democracy? The Rise and Evolution of Authoritarianism and Populism" (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 UYAMA Tomohiko
2 . 発表標題 Unite and Discriminate: Paradox of Nationalizing Empire in Russian Central Asia
3 . 学会等名 Annual ASEES (Association for Slavic, East European, and Eurasian Studies) Convention (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 NISHIKAWA Masaru
2 . 発表標題 Was the People ' s Party in the United States Really Populistic?
3 . 学会等名 Slavic-Eurasian Research Center International Symposium "Global Crisis of Democracy? The Rise and Evolution of Authoritarianism and Populism" (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1. 発表者名 OGUSHI Atsushi
2. 発表標題 Toward a Party System Collapse? Chaotic Elite Realignment in Ukraine
3. 学会等名 The 10th East Asia Conference on Slavic Eurasian Studies (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 OGUSHI Atsushi
2. 発表標題 Russian Deputy Ministers: Patrimonial or Technocratic Elites?
3. 学会等名 Slavic-Eurasian Research Center International Symposium "Global Crisis of Democracy? The Rise and Evolution of Authoritarianism and Populism" (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大串敦
2. 発表標題 プーチンのグランド・ストラテジー？ ロシアの紛争介入を事例として
3. 学会等名 日本国際政治学会2019年度研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 KAMO Tomoki
2. 発表標題 Groping for a Better Way: The Relationship between the CCP and Society
3. 学会等名 Slavic-Eurasian Research Center International Symposium "Global Crisis of Democracy? The Rise and Evolution of Authoritarianism and Populism" (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 YOSHIDA Toru
2. 発表標題 Is Populism Really Absent in Japan? An Institutional Approach to Its Regional Politics
3. 学会等名 Slavic-Eurasian Research Center International Symposium "Global Crisis of Democracy? The Rise and Evolution of Authoritarianism and Populism" (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 YOSHIDA Toru
2. 発表標題 Populism in the Age of Nostalgia: Is it Feasible to the Future?
3. 学会等名 Kanazawa International Symposium "Politics of Nostalgia: Populism, Branding and Nation-State" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 SAWAE Fumiko
2. 発表標題 The Politics of Belonging and Islam under Erdoganist Turkey
3. 学会等名 International Workshop "The Clash of Authoritarianisms: Secularism versus Islamism in Turkey" at the University of Utah (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takeshi Hieda, Masahiro Zenkyo, Masaru Nishikawa
2. 発表標題 Do Populists Support Populism? An Examination through an Online Survey following the 2017 Tokyo Metropolitan Assembly Election
3. 学会等名 日本比較政治学会2018年度研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Masaru Nishikawa, Takeshi Hieda, and Masahiro Zenkyo
2. 発表標題 Do Populists Support Populism? An Examination through an Online Survey following the 2017 Tokyo Metropolitan Assembly Election
3. 学会等名 2018 Annual Meeting of the American Political Science Association (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Masaru Nishikawa, Takeshi Hieda, and Masahiro Zenkyo
2. 発表標題 Do Populists Support Populism? An Examination through an Online Survey following the 2017 Tokyo Metropolitan Assembly Election
3. 学会等名 2019 Annual Meeting of the Southern Political Science Association (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Masaru Nishikawa, Takeshi Hieda, and Masahiro Zenkyo
2. 発表標題 Do Populists Support Populism? An Examination through an Online Survey following the 2017 Tokyo Metropolitan Assembly Election
3. 学会等名 2019 Annual Meeting of the Midwest Political Science Association (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉田徹
2. 発表標題 フランスの有権者はなぜEUに背を向けるのか：欧州懐疑主義台頭の原因
3. 学会等名 日本EU学会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yoshida Toru
2. 発表標題 Populism "made in Japan": a new species?
3. 学会等名 IPSA/AISP 25th World Congress of Political Science (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉田徹
2. 発表標題 2017年フランス大統領選・下院選の変動はなぜ生じたのか
3. 学会等名 日本選挙学会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Masaaki Higashijima
2. 発表標題 Historical Origins of Long-Lasting Military Dictatorships
3. 学会等名 European Consortium for Social Research (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Masaaki Higashijima
2. 発表標題 The Dictator 's dilemma at the ballot box
3. 学会等名 World Social Science Forum (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Masaaki Higashijima
2. 発表標題 Election Timing in Autocracy
3. 学会等名 Michigan State University Comparative Politics Workshops (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Masaaki Higashijima
2. 発表標題 The Choice of Electoral Systems in Dictatorships
3. 学会等名 University of Michigan Comparative Politics Workshops (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Masaaki Higashijima
2. 発表標題 The Dictator's dilemma at the ballot box
3. 学会等名 Book Workshop in the Weiser Center for Emerging Democracies at the University of Michigan (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計14件

1. 著者名 池内 恵、宇山 智彦、川島 真、小泉 悠、鈴木 一人、鶴岡 路人、森 聡	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 132
3. 書名 UP plus ウクライナ戦争と世界のゆくえ	

1. 著者名 澤江 史子 (編)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 上智大学イスラーム研究センター	5. 総ページ数 164
3. 書名 グローバルな認識論的権力関係の中のイスラームと日本	

1. 著者名 加茂 具樹	4. 発行年 2021年
2. 出版社 一藝社	5. 総ページ数 430
3. 書名 十年後の中国：不安感のなかの中国	

1. 著者名 加茂 具樹 (編著)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 一藝社	5. 総ページ数 234
3. 書名 中国は「力」をどう使うのか：支配と発展の持続と増大するパワー	

1. 著者名 Kai Kajitani, Tomoki Kamo	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 99
3. 書名 Political Economy of Reform in China	

1. 著者名 吉田 徹	4. 発行年 2021年
2. 出版社 光文社	5. 総ページ数 216
3. 書名 くじ引き民主主義	

1. 著者名 吉田 徹	4. 発行年 2022年
2. 出版社 みすず書房	5. 総ページ数 288
3. 書名 居場所なき革命	

1. 著者名 Higashijima Masaaki	4. 発行年 2022年
2. 出版社 University of Michigan Press	5. 総ページ数 363
3. 書名 The Dictator's Dilemma at the Ballot Box: Electoral Manipulation, Economic Maneuvering, and Political Order in Autocracies	

1. 著者名 東島 雅昌	4. 発行年 2023年
2. 出版社 千倉書房	5. 総ページ数 399
3. 書名 民主主義を装う権威主義 : 世界化する選挙独裁とその論理	

1. 著者名 石戸 光、鈴木 絢女	4. 発行年 2021年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 292
3. 書名 グローバル関係学3 多元化する地域統合	

1. 著者名 Anna Luhrmann, Nils Dupont, Masaaki Higashijima, Yaman Berker Kavasoglu, Kyle L. Marquardt, Michael Bernhard, Holger Doring, Allen Hicken, Melis Laebens, Staffan I. Lindberg, Juraj Medzihorsky, Anja Neundorf, Ora John Reuter, Saskia Ruth-Lovell, Keith R. Weghorst, Nina Wiesehomeier, Joseph Wright, Nazifa Alizada et al.	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Varieties of Democracy (V-Dem) Project	5. 総ページ数 41
3. 書名 Codebook Varieties of Party Identity and Organisation (V-Party) V1 [Data set]	

1. 著者名 高橋直樹、松尾秀哉、吉田徹編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 262
3. 書名 現代政治のリーダーシップ：危機を生き抜いた8人の政治家	

1. 著者名 宇山智彦、樋渡雅人（編著）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 日本評論社	5. 総ページ数 304
3. 書名 現代中央アジア：政治・経済・社会	

1. 著者名 吉田徹、岩本裕、西田亮介、三輪洋文	4. 発行年 2018年
2. 出版社 法律文化社	5. 総ページ数 168
3. 書名 民意のはかり方	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	西川 賢 (Nishikawa Masaru) (10567390)	津田塾大学・学芸学部・教授 (32642)	
研究分担者	大串 敦 (Ogushi Atsushi) (20431348)	慶應義塾大学・法学部(三田)・教授 (32612)	
研究分担者	加茂 具樹 (Kamo Tomoki) (30365499)	慶應義塾大学・総合政策学部(藤沢)・教授 (32612)	
研究分担者	吉田 徹 (Yoshida Toru) (60431300)	同志社大学・政策学部・教授 (34310)	
研究分担者	澤江 史子 (Sawae Fumiko) (70436666)	上智大学・総合グローバル学部・教授 (32621)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	東島 雅昌 (Higashijima Masaaki)		
研究協力者	鈴木 絢女 (Suzuki Ayame)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計6件

国際研究集会 Slavic and Eurasian Studies in Times of Uncertainty: Dialogue and Reappraisal	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 Authoritarian Governance: Institutions and Strategies	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 Survival Strategies of Ukraine and Russia: A Year On from the Outbreak of War	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 Slavic-Eurasian Research Center International Symposium "Global Crisis of Democracy? The Rise and Evolution of Authoritarianism and Populism"	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 Political and Economic Elites in Russia and Ukraine, Keio University	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 Policy Process and Social-Economic Structure in Russia and Ukraine, Hokkaido University	開催年 2019年～2019年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関